

太宰府市・扶餘郡姉妹都市承継締結5周年記念交流事業

# 古代大宰府と泗泚・百濟 日韓写真展



大韓民国扶餘郡: 定林寺址



太宰府市: 特別史跡大宰府跡

日時 平成29年7月19日(水)～7月27日(木)

会場 九州国立博物館 エントランス

(太宰府市石坂4-7-2)

- ・「古代大宰府と泗泚・扶餘 日韓写真展」は、九州国立博物館の開館時間のみご覧いただけます。九州国立博物館が休館日の場合は、ご覧いただけません。予めご了承ください。
- ・「古代大宰府と泗泚・扶餘 日韓写真展」のみの観覧は無料です。(自由観覧)

主催: 太宰府市、扶餘郡

共催: 九州国立博物館、太宰府市教育委員会

後援: (公財)九州国立博物館振興財団、(公財)太宰府市国際交流協会、  
(公財)古都大宰府保存協会

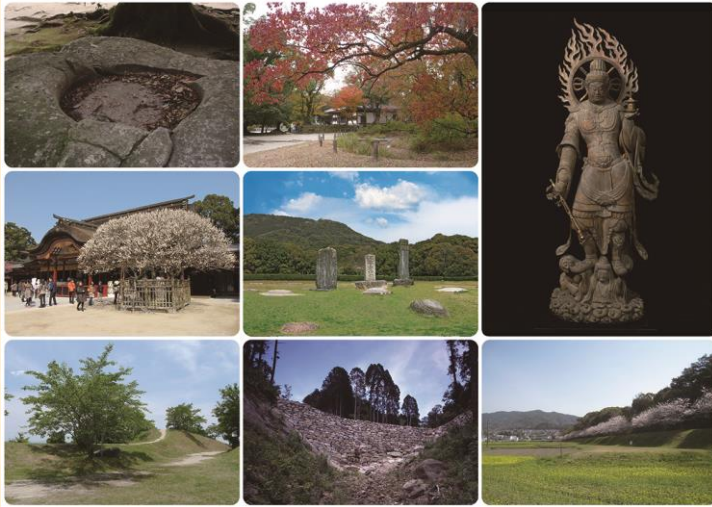
問い合わせ: 太宰府市観光経済部国際・交流課 TEL: 092-921-2121【内線482】



日本遺産

## 日本遺産 古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～

太宰府市内にかつてあった古代都市にまつわるストーリーが、19件の文化財や伝統行事とともに、2015年4月24日に文化庁の日本遺産に認定されました。



### 主な構成文化財

- ・大宰府跡（特別史跡）
- ・大野城跡（特別史跡）
- ・水城跡（特別史跡）
- ・観世音寺・戒壇院（史跡）
- ・筑前国分寺跡（史跡）
- ・般若寺跡（市指定文化財）
- ・観世音寺梵鐘（国宝）
- ・太宰府天満宮（重要文化財）
- ・太宰府天満宮の伝統行事
- ・南館跡（現在の榎社）
- ・太宰府の梅

ほか8件



## 世界遺産 百濟歴史遺跡地区

扶餘郡が有する百濟時代の遺跡が、2015年7月4日にドイツのボンで開催された第39回世界遺産委員会において「百濟歴史遺跡地区」として世界遺産への登録が認められました。



### 百濟歴史遺跡地区

#### 忠清南道 扶餘郡（4か所）

- ・官北里遺跡と扶蘇山城
- ・陵山里古墳群
- ・定林寺址
- ・扶餘羅城

#### 忠清南道 公州市（2か所）

- ・公山城
- ・宋山里古墳群

#### 全羅北道 益山市（2か所）

- ・王宮里遺跡
- ・弥勒寺址

## 1350年前の絆が今に続く太宰府と扶餘の交流

太宰府と扶餘とのつながりは古く、663年日本・百濟連合軍が唐・新羅連合軍との白村江の戦いで大敗した後、北部九州防衛のために水城堤防・大野城など3城の山城を築造する際、これらの工事を指導したのが扶餘（当時の百濟国の都）からきた技師たちであったといわれています。特に大野城など太宰府をめぐる山城は扶餘に残る山城とそっくりで、太宰府と扶餘との間に深いつながりがあった歴史的な証拠ともいわれています。

太宰府と扶餘の姉妹都市提携のきっかけは、昭和46年ごろからの太宰府天満宮の文化研究所と扶餘文化院との研究交流が始まります。その後、昭和52年に太宰府天満宮の菅公1075年大祭の一環として交流使節団を結成して扶餘を訪問した際、同行した当時の町長が姉妹都市締結の申し出を行い、翌年の昭和53年4月21日、太宰府町と扶餘邑は姉妹都市盟約宣言及び協定を締結しました。

その後、官民の枠を超えた交流が続き、今から5年前の平成24年4月8日、これまでの友好関係をさらに発展させ、交流を拡大しながら次世代につなげるために、扶餘邑との姉妹都市関係を上級行政区域である扶餘郡へと「承継」することとなり、平成24年4月8日、姉妹都市承継協定書を締結しました。

姉妹都市を承継した後は、これまでの小中学校間の相互訪問交流、太宰府少年の船と百濟青少年の星との相互訪問交流のほかに、文化交流公演、古代山城の活用に関する情報交換などの交流が行われています。